

第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域

ここでは、札幌博物館の基本テーマと対象領域をまとめています。

1. 札幌博物館の基本テーマ

北・その自然と人

平成8（1996）年度、札幌市博物館基本構想委員会から、基本テーマ「北・その自然と人」が示されました。このテーマは、札幌市が“日本列島の北に位置すると同時に、地球規模で見ると北と南の接点ともいえる中緯度にあること”、“北と南の要素がどのように出会って交流してきたのかが、札幌の自然と歴史と文化の独自性を生み出した重要な要素であること”を理由に設定されたものです。

このテーマは、平成10年の「札幌市博物館基本計画」、さらに、平成13年に策定した「札幌市博物館計画推進方針」にも引継がれ、博物館活動センターにおいてもこのテーマに沿った活動を実施してきた結果、サッポロカイギュウなど札幌の独自性を明らかにする発見につながりました。以上を踏まえ、札幌博物館においても基本テーマとして引継いでいきます。

【北とは】

札幌は北国というイメージがありますが、地球規模では北極と赤道のほぼ中間、北緯43度に位置します。中緯度は、寒冷的な環境、温暖な環境それぞれに適応した生物が共存する地域であり、極端に寒い「極」や暑い「赤道」に比べ、はっきりとした四季の変化や多様で豊かな自然と環境と生物が見受けられます。

【札幌の自然】

札幌の位置する石狩低地帯は、日本海とオホーツク海が拡大し、太平洋海洋底がその下に沈み込むことによって形成された国内でもほかに例を見ない形成史をもちます。

また、札幌は、日本でも有数な急流である豊平川によって形成された扇状地を中心に開けた街で、国内に存在する500余りの扇状地の中でも、100万人を超える人が住む扇状地は札幌以外にはありません。

【札幌における人とは】

札幌における「人」は、およそ2万年前の氷期の終わりころ、ユーラシア大陸と北海道の間にある海峡が、寒冷期に海水面が下がり地続きになったシベリア方面からサハリンを陸伝いに進入してきたグループです。これらのグループにより歴史形成されたことで、本州以南と異なる文化を形成しました。

その後、江戸末期から明治にかけて急速に行われた調査や開拓の中で、札幌は北海道の主都として街が形成され、日本全国から集まった様々な人々によって形作られた国内でも特異な歴史と街並をもっています。

2. 札幌博物館の対象領域

札幌市内には、北海道大学総合博物館や北海道博物館（旧北海道開拓記念館）が存在し、それぞれの博物館にはその設置にあたり、その使命と役割が規定されています。

北海道大学総合博物館は、大学創立以来からの膨大な学術標本の整理・保管と学際的研究分野を開拓することを特徴とした博物館です。

また、北海道博物館（旧北海道開拓記念館）は、北海道における総合的な博物館、道内博物館の中核となる施設として、人間史やアイヌ文化を保存・伝承し、未来に活かすことを特徴とした博物館です。

一方、札幌博物館では、自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化に関する札幌の独自性を市民と共に明らかにしていくことで、札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育み、創造性あふれる人材を育成し、人と自然の観点からまちづくりに貢献することに重点を置きたいと考えています。

また、常に市民とともに活動を続け、新たな発見をすることで、博物館活動の質とその魅力を高めていく、市民とともに「進化」、「発展」する博物館を目指していきます。

3館それぞれの役割分担については北海道大学総合博物館が開設された平成11（1999）年以降、これまで話し合いを続けており、今後も3館で協議を続けながら、それぞれの特色を明確にした活動を展開していくことを確認していきます。

市内大規模博物館と札幌博物館の比較

| | 札幌博物館 | 北海道博物館 | 北海道大学総合博物館 |
|-------|---|--|---|
| 領域 | 石狩低地帯形成の1億3千万年 | 人間史を中心とした120万年 | 開学140年の研究成果 |
| 特徴 | ・自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化を明らかにする「自然史系博物館」 | ・人間史の博物館 ・アイヌ文化を保存伝承し未来に活かす博物館 | ・学術標本の活用と学芸員研修や研究活動への援助を通じた博物館に貢献する「大学博物館」 |
| 使命 | 1 札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む 2 創造性あふれる人材の育成 3 人と自然の観点からまちづくりに貢献 | 1 博物館としての基本的機能の充実 2 北海道における総合的な博物館 3 道内博物館の中核となる施設 | 1 学術標本の管理・整理、次世代への継承と情報の提供 2 学術資料を用いた学際的研究分野の開拓 3 展示・セミナー等を通じた教育普及活動 4 博物館文化の創造と発信 |
| 対象 | 市民や札幌の観光客など ・市民にとっては札幌の独自性を総合的に学ぶ唯一の場であり、観光客などの来訪者にとっては札幌の魅力を味わい楽しむ施設 | 道民 ・特定の地域や人ではなく、北海道と道民が対象 | 学生・研究者 ・高等教育機関の博物館として学生・研究者への情報提供が中心 |
| 基本テーマ | 北・その自然と人 | 北東アジアの中の北海道 | モノ・コト・ヒトをつなぐ |
| 展示テーマ | 札幌の独自性5つのサブテーマ 1 さっぽろの自然景観の形成 石狩低地帯の形成と札幌の山、川、台地の形成史 2 さっぽろの生命と生物の進化 札幌産出の化石から見る生物の進化 3 さっぽろの自然と人類の共生 札幌の生物多様性と人々の暮らし 4 さっぽろの交流史 気候変動に伴う環境と文化の交流 5 さっぽろの形成史 札幌の街並を形成した自然背景を歴史や人物とあわせて紹介 | プロローグ 1 北海道120万年物語 ナウマンソウ、マンモスソウ。北海道に生きた人 2 アイヌ文化の世界 アイヌの口承文芸、伝承文化、暮らしと意識 3 北海道らしさの秘密 明治、大正、昭和を経て作られた北海道らしさ 4 わたしたちの時代へ 戦争、開発、自然保護など人と自然の関係 5 生き物たちの北海道 生き物同士のつながりを、生態系ごとに紹介 | 学術テーマ展示・知の統合 生き続ける札幌農学校精神 実学の精神 ロフティアンビションの系譜 知との対話 知との統合 循環から見る自然と人 生命／多様性と普遍性 人間・社会・自然と科学技術 北を見る目・北から見る目 |